三池の春闘は、こうして地域ぐるみでもりあがつている。

我が家の春闘

宮浦指導部　M生

桜の花も満開の峠を越し、若葉の芽がふきでて春らしく、暖い日和が続きますが、昨年からのインフレの波はやまず、今年は物価の昇りっぱなしで、止まるところを知らず。

労働者の春闘は、第一波をかわきりに最高潮に達する。

先日私たちも五万七千四百円の要求をかかげ、第一次回答を問題にせず、地域、職場における春闘の姿をアピールするための看板を立てた。

ちょうど看板を立てているそこに、小学三年の息子が通りかかり、私に看板の説明を求めた。

「お父さん、五万七千四百円て何ね」

「いまの給料では生活ができんけん、会社に要求しているとたい」

「お父さん、いま給料はいくらもらうとね」

「五万三千円ぐらいたい」

「ほんなら、ちょうど倍になるね」

「うん、そうよ」

「そんなら、絶対とられんね。僕たちの小使い二十円じゃ、何もかわれんとばい。倍にはしてもらわんと」

「そうだね」

子供は菓子を買うにしても、二十円ではほんとに何を買っているのやら。

そんなことを思うと、わが家の家計簿に照らし、子供の満足するように頑張らなくては、と思いつつ看板を立て終わった。

×

宮浦指導部電気分会新聞〝交流〟（NO・九）から。

労働者の怒りを国民のものにするために

春闘共闘中央動員に参加して

宮浦指導部　田口芳博

行動の概要

三月二十三日十二時三十分、西鉄バスで大牟田出発。参加者十四名。福岡県動員数二三九名（別に三百名、青年独自参加）は、同日十八時門司名門フェリー前に集結。

十九時三十分、西鉄バス四台でフェリーに乗船。大阪経由、東京に向かう。

バスの中で、各単産ごとに、現在おかれている組合の内部問題、及び要求と闘いについて報告・交流。中央動員に対する認識を深めると同時に、七四春闘に対し意志統一を行ないつつ東京到着。

中央行動第一日

三月二十五日十三時、日比谷野外音楽堂において二万人集会が開催される。福岡県動員団は全員参加。

十四時より、各ブロックごとに代表者を選出。各省・各県出身議員に対する工作も行なう。

交渉先――大蔵・自治・通産・文部・厚生・農林・経済企画庁・総理府の各省に、私鉄経営者協会・興産信用金庫など。

中央行動第二日

前日に引き続き、十時三十分から動員部隊はブロックごとの代表者が企業交渉へ。

交渉先――右油連盟、製紙連合、鉄鋼連盟、林野庁、日経連、経団連、化学協会など。

以上の行動に続き、十四時から労働省中庭において、交渉団への激励と抗議集会開催。（一万人）

ひき続き、労働省より国鉄労組本部前までデモ。七四春闘に対する都民の協力を訴える。

中央行動第三日目

前夜から降り続いた大雪のため道は凍り、なお降り続く雪のなかで、各省・各企業交渉や抗議集会が行なわれた後三日間の総括を行なって、今回の行動を終わったが、目的が完全に達成されなかったことに対し心残りがあり、残念だった。

この日の交渉先――運輸・建設・郵政の各省に、私鉄経協・東京電力・住宅公団など。

総括について

(1)まず今春闘が、インフレ・物価暴騰のなかで、国民の支持のもとに闘われる条件もあり、生活破壊に対する労働者の怒りを結集したものの、それを具体的な行動として消化し得ない弱さが、総評の指導のなかに見られたことへの不満が多かった。

(2)今回の春闘が国民春闘といわれながら、三日間を通じてビラ配布も見られなかったように、都民へのアピールが欠けていたこと。

(3)今回、折角各単産の仲間が一堂に結集したのにもかかわらず、意志統一をはかる努力、とくに交流さえ計画されなかったこと。

(4)中央行動が、各省交渉中心だけに片寄り、最後の国会デモが中止されたことが、全体の行動を暗くしたこと。

(5)私は今回の行動を通じてすすんで多くの仲間と交流し、各組合の現状を通じて話し合ったが、各組合とも、青年労働者を中心に、生活要求、合理化反対のため果敢に闘っていることを知り、それが自分自身の反省となり、今後はいままで以上に頑張る決意を固める結果となった。

今後のことについて

今後も今回のような中央行動が計画され、実施されると思うが、今回目についた問題点をふまえ、国民の理解を深めると同時に、労働者の怒りをさらに全体のものにしながら、今次七四春闘を勝利するために闘うことを決意している。

月光仮面が四山鉱の坑底に

四山鉱本層自走枠払の排気坑道の払口は、粉炭まじりの雨が横なぐりに吹きつけ、風下から風上を向いては歩けない。

月光仮面のように、メガネやマスクをかけて仕事をしなければならない。

係員に、「炭じんをどうかしてもらいたい」といったら、「坑道がせまいのでしかたがない。しんぼうしてください」。

そのためにまた負傷者がでても、個人の不注意にするな。

会社は働く者が負傷すれば、必ず本人の不注意にして反省の色がない。みんなで抗議しよう。

（四山四分会〝あしおと〟）から。

年金改善時期くり上げ

【連合】〝低所得者救済〟をかかげる国民春闘のヤマ場の四月十一日、衆院社会労働委員会で年金改善のくり上げが可決された。厚生年金、船員保険の物価スライド制導入は十一月予定を八月から、国民年金は来年一月予定の導入を九月からにくり上げられた。各福祉年金、老齢特別給付金の引き上げ、母子福祉年金の支給範囲拡大、児童扶養手当などの引き上げと給付資格緩和なども一カ月くり上げられ、九月実施となった。

炭鉱にきてくれる人はいませんか？

▼…最近会社は、社宅事務所などを通じて、「あんたの兄弟は何人な。その人は、何ばしよらすとな」と一人ひとりに聞いてまわっているようです。

「何んでな」ときいたら「仕事していないなら、炭鉱にきてくれんじゃろか。あんたからも、話してもらえんな」と、いうはなし。

会社は、本気で人員をふやそうとしているのか、それとも家族調査までして労務管理を強めようとしているのか。

三池炭鉱はいまでも人員が足りないのに、停年退職者が目白押し。人員不足は目に見えている。

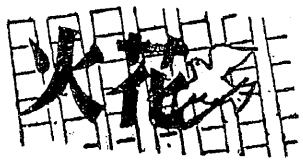
▼…が、これは労働者の話。

「いまんごつ賃金は安か。災害は多かでは、炭鉱にだれがくるか。人を雇いたいなら、もっと賃金ばガバッと上げて、保安は徹底的にようせんなら。それが先決」

三川八分会新聞〝坑口〟（NO・六）から。

学んで学んでそして学ぶこと

宮崎　大田原和好



第十一回三池にまなぶ会の受け入れ活動お疲れさまでした。

まなぶ友の会宮崎県協議会から十七名の仲間が参加しました。それぞれの職場に帰り活動をしています。

三月三日には参加者全員と数名の仲間に呼びかけ、報告討論集会をもちました。「生命と権利を奪う合理化」は三池に限らず、私たちの職場にも例外なくかけられてきています。

事実まなぶの仲間にも、腰痛症や頸肩腕症候群が何名もいます。しかし、資本主義の「カスづけ」になっている私たちは、学習闘争がない限り、そのような原因が労働強化や人べらしの資本主義的合理化にあることを見抜くことはできないと思います。

レーニンのいった通り、私たちまなぶの仲間の任務は、まなんでまなんで、そして学ぶことだと思います。

三池にまなぶ集会に向けて取り組んだCOカンパ二万七千五百七十六円を、別の現金封筒にてお送りします。

同封の写真は、三月三日の報告集会の写真です。報告集もお送りします。

×

大田原さんの連絡先は、「宮崎市広島通り一―一一の一三、社会党県本部内」です。

写真は、宮崎で行なわれた三池にまなぶ報告会。

ついにCO患者守る会結成

岩手　山本和憲

第十一回三池にまなぶ全国集会の際、いろいろお世話ありがとうございました。

宮古では国民春闘のなかで、三月二十三日〝宮古地区CO患者を守る会〟が結成されました。

会員十二名。会長、事務局長、会計を選び、第一回総会を九月を目途にして運動をすすめ、会員の拡大をしていきます。

六月頃には、さらにくわしい報告をしたいと考えています。よろしく。

×

山本さんの連絡先は、「岩手県宮古市宮町二―二一五、宮古地区CO患者を守る会」です。なお会長は国鉄労働者です。

組合員・主婦会員の皆さん、このようにしてとり交されている手紙があれば編集部へ寄せて下さい。そして、火花欄に紹介しましょう。くれぐれもよろしく。